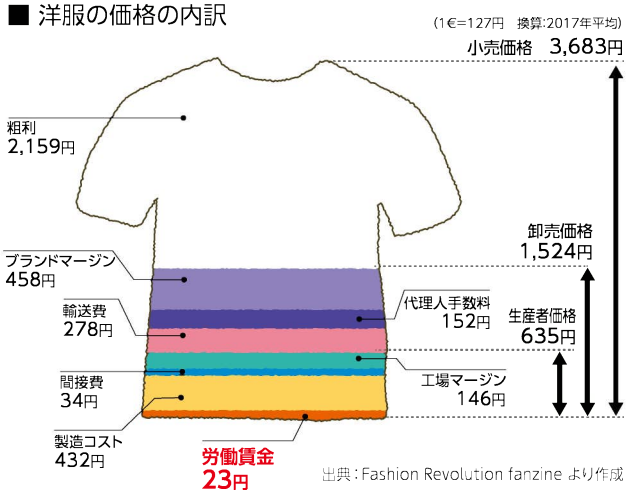
人・社会

問題2 ファッションの裏側にある過酷な労働環境

②の写真は、2013年4月24日バングラデシュの首都で起こった事故の様子です。縫製工場が入っていた8階建てのビル「ラナプラザ」が崩壊し、1,100人以上が犠牲になりました。事故の前日、建物に亀裂が確認されたため労働者は不安を口にしましたが、経営者は操業を継続しました。建物が違法に増築されていたのです。ここでは、主に欧米のファストファッションが作られており、わたしたちにとって身近なブランドも含まれていました。10代から20代半ばの女性が昼夜なく働き、1日の労働時間は14時間、月給は5000円足らずでした。

なぜ労働者は、このような状況で働かされていたのかな?

■ 洋服の価格の内訳



出典:Fashion Revolution fanzine より作成

エシカル <企業> “労働環境の改善と情報開示”

過酷な労働環境で自社ブランドを生産させていた企業は、欧米を中心に不買運動の対象になりました。

事故後企業では、生活賃金の保障の取組を進めたり、取引先工場を公表し透明性を確保したりといった動きが広がりつつあります。

縫製工場の様子　カンボジア・プノンペン
©2014 Samer Muscati/Human Rights Watch

エシカル <市民> “ファッション・レボリューション”

この事故を受け、毎年4月24日を「ファッション・レボリューション・デー」として世界各地でファッションの革命を呼びかける市民活動がおこりました。日本でも、「洋服を誰がつくっているのか?」を考えるトークイベントやSNSの発信を通してファッションの透明性を訴え、未来を変えようとしています。

FASHION REVOLUTION 2018 洋服から未来を考える
写真提供:EF」

この問題を解決するため、あなたは消費者市民(P.3)として何ができるかな?

調べてみよう!

・あなたの着ている服は、どこで作られたものかな? 表示を見てみよう!

サプライヤーリスト　公開